

景観シミュレーション自己評価書

シミュレーションの距離帯		評価基準（考え方）	評価対象	基準のチェック	評価基準に対するコメント
遠景	<p>●背景との関係が読み取れる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>位置・規模を評価</p> <p>（目安 1)1,000m程度 2)最大寸法 20 倍 例) 高さ 50mの場合 距離 1,000m程度</p>	<p>●大景観と調和しているか（地域の景観の特徴との関係）。</p> <p>・景観形成基準や広域景観形成基準がある場合、景観形成の目標に適合しているか。</p> <p>・地域の景観の優れた特徴を乱していないか。</p> <p>・親しまれている眺望を妨げていないか。</p>	① 位置	✓	有馬川から建物まで離隔をとり、山に沿うような配置計画とし、なるべく景観を阻害しないよう配慮した。
			② 規模	✓	山並みを考慮した規模とし、周囲への圧迫感に配慮した。
			③ スカイライン	✓	山並みのスカイラインを超えないよう配慮した。
中景	<p>●建物の周辺の状態がわかる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>主要部位を評価</p> <p>（目安 100～500m程度）</p>	<p>●中景観と調和しているか（周辺景観とのバランス）。</p> <p>・周辺の優れた景観特性を乱していないか。</p> <p>・過剰に目立っていたり、雑然としていたり、周辺に景観阻害感を生じていないか。</p>	① 基調色	✓	落ち着いた色調を基本とし、周辺の景観をなるべく損なわないよう配慮した。
			② おおまかな形状	✓	一定の分節を試みつつ、装飾は避け、落ち着いた外観とするよう配慮した。
			③ 主要な付属物 （屋上設備 屋上階段 ベランダ等）	✓	本体と同材の壁面を使用し、また、ルーバーで隠すなどにより配慮した。
			④ 特殊な材料 （金属やミラなど）	✓	ルーバーは木調とし、ガラス面は最小限の範囲とした。
近景	<p>●隣接する建物との関係や通りの雰囲気わかる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ディテールを評価</p> <p>（目安 50m程度）</p>	<p>●小景観と調和しているか（通りの雰囲気と建物のデザインとの関係）。</p> <p>・通りの雰囲気を悪い方向に乱していないか。</p> <p>・商店街や住宅地といった通りの性格や将来計画に照らし合わせて適当なデザインか。</p> <p>・建物の立つ場所の特性（交差点に面するなど）に配慮しているか。</p>	① 壁面意匠 （ファサード意匠 側面の仕上げ 壁面設備）	✓	落ち着いた色のある色彩・質感で構成し、また階段はルーバーで目隠しを設置した。
			③ 看板類	✓	目立ちすぎないものとした。
			④ アクセントカラー	✓	建物と調和のとれた色彩とした。
			⑤ 低層部の雰囲気	✓	目につきやすいことを考慮し落ち着いた色・材料で構成した。
			⑤ 敷地利用 （緑化など）	✓	敷地境界沿いは可能な限り植栽帯を設置した。
地点	<p>●周辺の公共空間（前面道路の歩道など）との関係がわかる距離</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>道路際の造作を評価</p> <p>（目安 10m前後）</p>	<p>●前面の公共空間と調和しているか（道路際の雰囲気）。</p> <p>・道路敷が雑然としていないか。</p> <p>・地区固有の行事などに支障はないか。</p> <p>・前後の歩道の雰囲気を乱していないか。</p> <p>・その他、圧迫感や歩きにくさを感じさせるようなところがないか。</p>	① 低層部のディテール・意匠・材料・構造	✓	目につきやすい低層部はルーバーや落ち着いた印象のある壁面とした。
			② 敷地のデザイン （敷地の舗装 緑化状況 駐車場の見えなど）	✓	敷地境界沿いはなるべく植栽帯を設け、駐車場が見えにくくなるよう配慮した。